

# 第1回全国若手会

高分子学会 小柳津 聡

酒井先生(東京大学)を幹事長として、高分子学会での初めての試み、第1回全国若手会が11月16日(木)、17日(金)の1泊2日で神奈川県湯河原の研修施設を利用し開催されました。

多様なメンバーのリアルな人的交流の場は、新しい発見やイノベーションのために有効ですが、ここ数年COVID-19の影響で機会が失われてしまいましたので、この機会を少しでも補うための企画です。アカデミアと企業メンバーが多く属するという高分子学会の特長も活かすべく、アカデミア、企業から同数の24名、合計48名の若手研究者(一応45歳くらいまで)が集まったの合宿となりました。

初日の半日は、それぞれのバックボーンを知るため、各自3分間で自分と研究・仕事の紹介を実施。全員が用意してきたポスターを会場に貼り出した後、夕食、そして20時から23時は少し?お酒が入ったの懇親の時間となりました。夕方から駆けつけていただいた伊藤会長のご挨拶と田中先生(京都大学)の乾杯ではじまり、各ポスターの前やお酒の入った冷蔵庫の前でいくつもの輪ができて盛んな交流がなされました。23時を過ぎても皆さん部屋に戻る気配はなく、談話室などいくつかに分かれての交流は続き、中には4時半解散だったところもあるのかなとか。

2日目は「対話から共創のプロセスを体験し、Think togetherで共創に向けてみなさんが動き出す状態をめざす!」をゴールとしたワークショップを、旭化成の竹花 晶さんとグラフィックファシリテーターの馬込 麟さんのファシリテートで開催。

最初の「think alone」「think together」のどちらのタ

イプ?との問いに、参加者の8割がthink aloneと答え、ほぼ一匹狼の集団という予想どおりの結果。「儀礼的な会話」から「ディスカッション」「共感・内省的対話」を経て「共創」の入り口に向かうためのワークショップを開始。酒井先生の共創体験のお話や参加者の発表や感想が、リアルタイムで馬込さんのイラストで見える化されていきました。最後に共創の疑似体験として10組に分かれてのグループワーク「メンバーの専門性を組み合わせて新しい価値を創造してみよう!」を実施。参加者全員の投票で「私たちは、電腦化技術を使って全人類の知識レベルを強制的に成長させることで人類に貢献します。」が最も人気を集めました。僅差の2番人気は「私たちは、精密分解と合成を使ってどこでもドアを作って人類の進化に貢献します。」でした。各グループがワークの成果の模造紙を掲げて、馬込さんのイラストの前で記念写真を撮り、ワークショップ終了。今後、上司や同僚、部下や学生、さらに産学で研究や開発を行っていく上での共創のコミュニケーションについて知り、経験を深める場となりました。

最後にアンケートの結果を少し紹介します<sup>(S1)</sup>。

若手の企業研究者とアカデミアが集うことについて: とても意義があった81.6%、意義があった18.4%、あまり意義を感じなかった0.0%。ネットワークができた場面(複数回答の上位): 懇親会86.8%、懇親会後のネットワーキング63.2%、自己紹介&研究・仕事紹介52.6%。第2回を開催したならば参加したいですか: 知り合いに紹介したいですか: また再度、参加したい68.4%、知り合いに紹介したい52.6%。



初日夜の懇親会の風景, 2日目は昨夜(早朝)の解散時間をあらかじめ予想して、遅めの午前から。



事務局からのオンラインアンケートに回答して、名残惜しい中、解散。壁にはワークショップが見える化されたイラスト。

\*<sup>(S1)</sup>は、会誌PDF版のSupporting Informationにハイパーリンクされています。